

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月6日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0175000660
法人名	特定非営利活動法人 すばる
事業所名	グループホーム 夢
所在地	北見市留辺蕊町旭中央29番地108 (電話) 0157-42-5157

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成21年7月24日

【情報提供票より】(21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 25 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.0 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	12,000~17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北見中央病院 ・ 小野寺医院 ・ 木村内科小児科 ・ 温根湯歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム夢は、北見市留辺蕊町東部に位置し、周りは閑静な住宅街で込み広々と静かな環境化にある平屋建ての1ユニットになっています。南側には、自家栽培の畑や花壇を設けており、居間や居室からも眺められる雰囲気を作り出しています。管理者・職員は「長い人生の主役です、自分らしくゆつくりとのんびりと」の理念を掲げ、管理者・職員は自らの行動が理念を具体化していく事を意識し、利用者一人ひとりを尊重し、日々のケアサービスを実践しています。利用者から学ぶことを大切に支え合い、馴染みの関係で支援することに努めています。毎日の体操や買い物・散歩に出掛ける等利用者の希望・体調に合わせた支援が行われています。又、パンの移動販売、大正琴やギター演奏等のボランティアにも来てもらい楽しんでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の離職を最小限に抑えスムーズに移行出来る様配慮し、利用者・家族の信頼関係の構築に努めています。同業者との交流も行っていますが少なく、職員の交換研修の計画も検討しています。災害対策の取り組みは、自治体での防災訓練への参加と避難消火訓練の際に、消防署の協力と近所の方達にも参加してもらい理解を深める様改善されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を実施する目的や意義について全職員で話し合い、管理者・職員が気づきを確認しながら自己評価に取組み、事務長がまとめ取り組んでいます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会会長・地域住民代表・民生委員・地域包括支援センター担当者・利用者家族等を構成メンバーとして、昨年10月に3回目の運営推進会議を、ホーム行事(味覚祭)に合わせて実施しています。昨年10月以降会議は開催されておらず、地域の理解や支援を得る機会として今後の方向性について検討し、8月中旬に開催を予定しています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に内部・外部苦情相談窓口を明示し、家族に伝えています。家族の来訪時やお便り「夢」を届ける際に、職員はコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。意見・苦情・要望等があった時は、その都度話し合い全職員が共有し、ケア向上に繋げています。状況変化時は電話で報告し、様子を文書で伝えています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域行事(草刈り・夏祭り・防災訓練等)に積極的に参加するとともに、買い物や散歩を通して日常的に交流が図られています。ホームでの行事や避難訓練に地域住民が参加したり、隣家の高齢者にも気を配るなど、日頃から地域住民との交流が深められるような取り組みを行っています。実習生の受け入れや大正琴・弾き語り・紙芝居等、ボランティアの訪問もあります。近所の除雪も行ない交流を図っています。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員は、「自分らしくゆっくりのんびりと、長い人生の主役です」という独自の理念を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を意識して利用者に支援をする事を心掛けており、ミーティングでも理念を振り返り取り組んでいます。居間や玄関に掲示しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して行事や日常の挨拶などの交流に努めています。畑で採れた野菜を使って収穫祭を行なう時に近所に声を掛け、冬季の除雪支援など交流を深めています。大正琴やギター演奏ボランティアも来訪しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価票を記入し、職員とミーティング時に検討を重ね修正を経て改善に向けて取り組んでいます。前回の外部評価については、ミーティングで検討し改善点を見直しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに、包括支援センター担当者・自治会役員・近隣住民・民生委員・家族に依頼していますが、スケジュールが合わない等、定期的な開催が滞っています。	○	概ね2月毎に運営推進会議の開催で、ホームの行事に合わせた家族の参加と地域への理解を深め、かつ情報の共有という観点から議事録は出席者及び家族全員に配付出来る様望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北見市介護福祉課とは密な連携を取っています。又包括支援センターや社会保険事務所にも相談しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を手渡しする時や家族の面会時に、利用者の日常の様子や金銭管理の報告をしています。不定期ですが夢便りを発行し写真などと一緒に手渡しや送付をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問が多く、面会時に相談や苦情を言える関係が築かれ話し合いで反映しています。病院の受診結果については、電話などで報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が安心して支援を受けられるよう、離職は最小限に抑える為管理者と職員はコミュニケーションを取って、利用者に馴染んでもらえる関係を築いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修に参加してスキルアップに努めています。研修内容を報告書にして申し送り時に確認する様取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は複数の同業者と交流を持っています。職員はそこまでの交流は少ないようです。運営者は他のホームと職員の人員交流研修を検討しています。	○	グループホームのネットワークを利用して、研修時や訪問見学を通じて交流する機会を得ることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や家族への説明・聞き取りをして、利用者が馴染めるよう配慮し工夫をしています。やむをえず急きよ入居の場合にも、家族や関係者に聞き取りをして納得してからサービスを提供しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と考え、会話を通して学んだり支えあう関係が築かれています。移動図書館での本の貸し出しを行ったり、野菜や花の種を蒔いたり職員と支え合っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や食事・おやつ、散歩や買物等の外出の希望があれば取り入れて生活が出来る様支援をしています。		
を					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	6ヶ月ごとに家族と共に利用者の現在の状況を伝え、計画作成者が中心となって職員全体の意見をまとめ機能の維持向上を心掛けています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直しており、その都度状況に変化があった場合は、家族と連携を取りながら迅速に検討し対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診介助や送迎支援及び散歩や買物などの外出支援も行っています。重機を持っているので近所に除雪支援も行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム協力病院への通院により健康状態を把握しています。又かかりつけ医の往診もあり、急変があった場合など密な連携を取っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応に向けて入居開始時には家族・主治医・管理者含め、話し合い方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のケア記録の記入は、内容を見られないよう工夫し見守りながら居間で行なっています。言葉掛けや見守りにも注意を払っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールは決まっていますが、利用者の気持ちを尊重し、生活リズムに合わせて柔軟な対応を取る様心掛けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員によって決めています。きざみ食やおかゆまで利用者ごとに合わせて工夫し、畑で採れた季節ごとの野菜を食材に使っています。茶碗拭きや配膳など役割を持って支援をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴開始時間は14時からになっていますが、利用者の希望に沿って入浴時間を柔軟にしており、健康状態やタイミングに合わせた入浴を支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳・後片付けや洗濯物をたたんだり、雑巾がけ・掃き掃除などの家事から歌を歌ったり花壇の世話まで出来る事の支援をしています。日めくりカレンダーを捲る役割も支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等の外出支援、車で足湯のある温泉施設や遠軽町の太陽の丘公園など、行きたい利用者には希望を叶える支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠していますが、センサーチャイムを取り付けて自由に出入できます。利用者の安全確保と面会時の確認に繋がっています。居室には鍵を掛けない支援をしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間と夜間想定で火災訓練は年2回実施しています。近所の人たちにも告知をし、参加をしてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量は1000cc程度を目安にしており、ケアファイルに記録し共有しています。カロリー計算・栄養バランスを考え、一人ひとりの状況に応じ食べやすい大きさや硬さに注意して支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂の窓は南面に取りカーテンで光の量を調節したり、暖房はFFストーブを取り入れ安全に十分配慮しています。窓を開けて換気と臭いに気をつけています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6帖の大きさの部屋に今まで使っていた家具や写真・テレビを持ち込み配置して、以前と変わらない生活空間を作り出しています。		